

語順の自由度

仮説: field-dependentな言語ほど語順の自由度が高く、field-independentな言語ほど語順の自由度が低い。

中国語: Chiu(1972) 中国人はfield-dependentであり、アメリカ人はfield-independentである。

マクア語: Stucky, Susan U. (1981) "Free word order languages, free constituent languages and the gray area in between," *NELS* 11, 364-376.

認知スタイルの概説: Witkin, Herman (1978) *Cognitive Styles in Personal and Cultural Adaptation*. Clark University Press.

まとめ

- 従来の言語類型論研究では言語構造の分布と異なった言語構造の間の相関関係の解明に力が注がれた。
- その反面言語類型の裏にある認知過程の差異に関する追求は行われてこなかった。
- 『「する」言語と「なる」言語を考え直す』の講義で触れた社会心理学的な実験手法による責任意識と他動詞との相関を追及する研究は言語と認知過程の関係に鍬を入れるものであった。

まとめ

- 認知心理学において研究されてきた認知スタイルの研究は基本的に個人差に関する研究であった。
- しかし集団差を探る手段としても用いることが出来る。
- 従来の直感的な国民性に関する説も実験によって実証的に確立することが出来る。
- 言語変化についても認知スタイルの変容を原因とする仮説として設定できる。
- 次回の講義では認知スタイルの発展的理論としての文化心理学と言語類型との関係を探る。